

平成24年7月

小中統合記念号

京都教育大学
附属京都小中学校
東櫻同窓会（仮称）

(仮称) 同窓会だより

〒603-8163
京都市北区小山
南大野町1番地
TEL
(075)431-7131
発行人 堀場 厚会長
印刷 中西印刷

— 附属京都小中学校「同窓生のつどい」報告号 —



*WEST
AREA*



*EAST
AREA*



同窓会ホームページアドレス <http://www.touou-dousoukai.jp/>



ご挨拶

同窓会会長 堀場 厚

東櫻同窓会（仮称）の会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

一昨年に実現した小中学校の九年制の一貫校への再編に伴い、昨年念願であった小中学校の同窓会の統合が実現したのは、昭和四三年以来同窓会長としてご尽力賜った千玄室様をはじめ統合委員会等関係各位のご努力の賜物と深く感謝申し上げます。

早いもので、私が附属京都小学校を卒業して五〇年余りになりますが、一人一人じっくりと向き合い、豊かな感性と人間性を大切にされた教育が、今日の私の基礎になつていふと思えます。私が企業経営で最も重視しているのが人です。ゆえに私は人材の「ザイ」の字に財産の「財」の字を当てています。人間性豊かな「人財」を育てる教育のコンセプトとは次の四つです。

- 一、基礎基本をきちんと教える
- 二、失敗を経験させる
- 三、褒める
- 四、本物、一流を教える

価値観が多様化し、グローバルな現代社会の中で、生きていくためには、国際化、情報化、科学技術の進歩に対応していける力、主体的に社会と関わり、豊かな感性、人間性を持つこと、高い知性と実践力、そして個性を発揮できることが大変重要だと考えています。

自らの将来展望を切り開いていく能力を身につけ、二一世紀をリードする生徒の育成を目指し、九年制の一貫校として実践されている附属京都小中学校の発展のために、同窓会としてもできる限りのお手伝いをしていきたいと思えます。

同窓会員の皆様のご多幸とご健勝、同窓会の益々の発展を心より祈っております。



ご挨拶

同窓会副会長 大倉 治彦

昨年六月に小中合同の東櫻同窓会（仮称）が発足し、今回、会報第一号が発行されることを、大変嬉しく思います。同窓会統合の際に多くの会員の皆様に大変なご努力とご協力を頂きましたことに、改めてお礼申し上げますとともに、新生同窓会の副会長として会の発展に努めて参りますので、引き続きご支援の程よろしくお願い致します。

背が高いのとバレーボールをやっていたことから、高校の途中からゴールキーパーをしています。大学でも、体育会サッカー部から強く誘われ、学問そっちのけでサッカーに没頭しました。熱心に誘われたのもっともで、ゴールキーパーは私を含めて二人しかおらず、私がいなければ紅白戦も出来ない状態だったのです。

私の小学校の思い出は、何とんでもサッカーのことです。三年生の時に迫田先生が赴任してこられ、初めて担任されたのが私達のクラスでした。迫田先生が創られた紫サッカー少年団（現・京都紫FC）に入ったのが、私とサッカーとの出会いです。当時、附属中学にはサッカー部がなかったの

でバレーボール部で活動しました。が、附属高校では再びサッカー部に入部しました。ポジションは、

今年、附属同窓会と同じことになりました。

今年、附属同窓会と同じことになりました。

今年、附属同窓会と同じことになりました。



ご挨拶

同窓会副会長 鈴木 順也



ご挨拶

学校長 谷口 淳一

小中学校の実質上の統合に伴い、同窓会も小中が一体化されました。私たちが暮らす社会・経済においては環境が常に変化していることから、それへの適応を怠ることはできません。小中統合という学校のあり方の変化も、そのひとつであると考えられます。したがって、学校を側面からサポートする立場にある同窓会がこれを受け入れて対応していくことは必然的なことでした。同窓会の一体化は、附属の歴史のひとつの重要な進化です。まことに、おめでとうございます。

一方、同窓会理事会の方々には、この一体化を契機に多大な時間と努力を事務作業に費やしていただきました。例えば、同窓会名簿のアップデートは、長い間にわたって音信不通になっている仲間たちの情報を集めるなど、細かい糸を手繰り寄せるような手間のかかる作業でしたが、結果的に高い判明率

を達成したと聞きました。近年は、FacebookなどSNSの普及・定着に伴って、何十年も消息が途絶えていた旧友と、意外にも簡単にインターネット上で再会することが可能になりました。手段が同窓会名簿であれ、Facebookであれ、私たちには多かれ少なかれ、若かりし日々の仲間とコネクト(接続、連絡)していたいと願う気持ちがあります。社会に出ると人間関係は多様な形で高度化、複雑化していきます。コネクションが広がるにつれ、そこで学ぶことが多い一方で、ストレスも感じるようになります。そのようなとき、旧友との自然体の再会が実に心地よく感じられます。同窓会の性格上、これ自体が私たちの生活の主活動にはなりません。人生のちよっとした瞬間において、誰かとコネクトしているという実感が得られるような同窓会でありたいです。

同窓会の皆様におかれましてはご清祥のこととお喜び申し上げます。平素より本校教育活動にご理解とご支援を賜りまして厚く御礼申し上げます。

本校が小中一貫教育学校として発足したことを機に小学校同窓会(東櫻同窓会)と中学校同窓会が統合され、京都教育大学附属京都小中学校東櫻同窓会(仮称)として新しくスタートされましたこと心よりお喜び申し上げます。

本校におきましても小中一貫校として、九年間という従来よりも長期的な積み上げの中で、生徒一人一人のキャリア発達能力に焦点を当てた教科授業をはじめ、様々の教育活動を展開しています。また、これまでの学校行事や学習活動を見直し、小中の教員で知恵を出し合い、伝統を大切にしながら新しいプログラムで始動しております。

その一つとして、大きな縦割り

イベントであるスポーツフェスティバル「紫翔祭」を昨年も十月に行いました。八年生が組んだ安定した騎馬に四年生が乗り迫力のある騎馬戦をしたり、一年生から九年生の選抜リレー等で大変盛り上がりました。

施設面では、西・東エリアを新町通りをまたいで結ぶ本校専用の連絡通路をつけ、安心、安全に行き来が出来るようになりました。

西エリアの子供達に大人気の築山も植栽等をしてきれいになり、東エリアの講堂も一階フロアに六百席を有する規模に改修することも出来ました。このように充実した環境の中で子供達の学力の向上を図ると共に、人間として成長し、可能性を広げていってくれる事を期待しております。

今後共、同窓会の皆様方にも尚一層のご支援とご協力を何卒宜しくお願い申し上げます。

ご挨拶にかえて 小中名簿統合作業の進展

同窓会理事長 中西 秀彦

このたび、同窓会の理事長に就任いたしました中西秀彦と申します。理事長と申ししても、当会には会長も副会長もいらっしゃいますので、理事長は事務を實際に取り仕切り、会務を円滑に運用する役目をさせていただくこととなります。会長、副会長のおじやまにならないよう誠心誠意努めさせていただきます。

小学校と中学校の同窓会の統合というお話は以前から課題となっておりましたが、なかなか前へとは進んでおりませんでした。ところが、実際に母校である小学校と中学校が統合され、附属京都小中学校となられたに及び、一気にその機運がもりあがり、昨年の両同窓会総会にて統合が成し遂げられたのは既報の通りです。ところが、小学校と中学校の同窓会を統合するとなると、両者で組織や規約、慣習が大きく異なっており、

これを調整しなければなりません。昨年の統合化規約の制定で、そのほとんどは終わったように思っておりますが、実際に作業をはじめますと問題が山積みとなっておりまして、それをひとつひとつ会長、副会長、常任理事や学校側とお話ししながら解決しているというのが現在の状況です。

まず、この「たより」を出すための最大の問題が、名簿の統合という作業でした。これを統合してひとつの名簿にしなければ、小学校と中学校を卒業された人には、小学校名簿にもとづくものの二通の「たより」が送付されてしまうこととなります。これは、送られる側にとつては迷惑なことですし、同窓会としても、印刷費・郵送費が倍かかってしまうことになり経費の無駄となります。

名簿統合は同窓会統合作業のこ

ろから、最大の問題であることは承知していました。実はこの名簿問題は統合以前から、懸案になってきたことでもあります。小学校と中学校両方を卒業した人からは、転居や結婚による改姓情報などを、小学校か中学校の両者に送らねばどちらかが改訂されないからです。また学年理事が両者で異なっている場合は学年の情報自体が共有されていないということもありました。これでは迅速な名簿改訂はのぞめません。

実際の統合に当たっては、いろいろな方法を検討しましたが、結局、コンピュータの力を借りて、名前を基準に機械的に統合させていただくことにいたしました。同じ学年の小学校と中学校（小学校卒業三年後に中学校を卒業した人）の名簿を比較し、同じ名前の人を同一人として、一本化するというものです。ただし、この作業だけでは、小学校と中学校で改姓情報が変わっていたり、小学校と中学校で届けられた住所が違っていたりすると、統合できません。結局、最終的には各学年に確認していただくしかないことになりました。

す。

従って、このコンピュータによる統合と並行して、昨年九月から学年理事を確認する作業も行いました。小学校、中学校の各学年理事さんに連絡をとり、統合化した学年理事と名簿担当理事を決めて欲しいという依頼を送りました。この作業が実は難航しまして、多くの方が学年理事や理事という認識がなく、また若い学年では転居が多く連絡のとれないということも多かったのです。常任理事会では手分けしてこうした不明学年に連絡を繰り返して、ほぼ全学年の理事が決定できたのは、本年一月になっていました。

ここでようやくコンピュータ統合した名簿を決定した各学年毎の名簿理事さんに送付し、名簿の異同を確認していただいたようなわけです。これを返送していただいたものを新たな名簿に反映してやると一応のかたちができましたが、まだまだ不備もあると思いますが、ようやくこの「たより」の発行にこぎつけたようなわけです。みなさま今後同窓会活動へのご協力をお願いいたします。

附属京都小中学校 「同窓生のつどい」の報告

実行委員長 荒木 俊哉

平成二三年六月二十五日(土)京都ホテルオークラにて、「同窓生のつどい」が開催されました。今回は、小学校を昭和五六年から五八年、中学校を昭和五九年から六二年に卒業した同窓生で実行委員会を発足させ、小中の同窓会統合への動向を見ながら、三年間準備を重ねてまいりました。この「同窓生のつどい」は、母校が小中一貫学校となつてから初めての開催であり、全く霧の中の準備作業で大変不安でなりませんでした。

当日の出席者は、同窓生二八三名、ご来賓や恩師の方二六名の計三〇九名となり、当初目標にしていた三三〇名を超える参加をいただきました。同窓生の内訳は、小学校の卒業生三二名、中学校の卒業生四一名、小・中学校両方の卒業生二一〇名となっています。懇親会のオープニングは中等部

年生九名、八年生一五名、七年生七名の合計三一名で活動されていて、大勢の先輩方を前にして元気いっぱいな演奏を聞かせてくれました。はじめに、新同窓会の新役員を代表して、大倉治彦副会長(小昭46年卒・中26期卒)にご挨拶いただきました。

続いて、結成八年目を迎えたアンサンブル東櫻のコーラスです。指揮は桑山博さん(小昭34年卒・中14期卒)、伴奏は岡本淳子さん(中14期卒)で、今を盛りと咲き誇っていますAKB48のナンバーより『櫻の葉』、「ガンバレ東北!」、「よみがえろう日本!」のメッセージを込め『ビリーブ』、そして『瑠璃色の地球』の三曲を歌っていただきました。素晴らしいコーラスは、日頃の練習の成果の賜物でした。鏡開きは、千玄室前東櫻同窓会会長様や細川友秀京都教育大学副

学長など同窓会役員ならびに学校関係者で行いました。その後、京都教育大学の細川友秀副学長の祝辞をいただきました。記念すべき小中統合第一回目の公演は、柱本めぐみさん(小昭46年卒・中26期卒)のトワイライトコンサートでした。会場入口より迫力ある歌声で入場され、『アメーzingンググレース』、『虹の彼方に』、『君を愛す』、『アヴェマリア』、『か

らたちの花』等を披露していただきました。途中『故郷』では、会場のみなさんと合唱をする場面もありました。会場いっぱい美しいソプラノの歌声が響き渡り、皆さんその素晴らしい歌声に聞き入っていました。しばらく歓談後、同窓生が楽しみにされていた恩師紹介です。小学校の恩師八名(安田祐治先生、今西幹郎先生、牧野美代先生、渡辺武野先生、迫田恒夫先生、田中修先生、青山泰浩先生、王丸尚美先生)、中学校の恩師一一名



先生、高屋定克先生、垂井由博先生)の合計一九名の出席をいただいております。小学校の恩師紹介は迫田恒夫先生、中学校の恩師紹介は高乗秀明先生に行っていました。同窓生の方々は、自分自身が直接習った先生の紹介があると、いつまでも変わらず元気な姿に、大きな拍手と歓声を上げて喜んでいました。

続きまして、母校が小中一貫学校となり、学舎も大変様変わりしているのので、小学校は戸田和樹初等部副校長先生に、中学校は橋本雅子中高等部副校長先生に、プロジェクターに現在の学舎を映しながらご説明いただきました。小学



(畑井多津子先生、岡成子先生、山川信晃先生、清水弘先生、山中隆先生、野村宣克先生、江坂光宏先生、高乗秀明先生、森恭子



先生、高屋定克先生、垂井由博先生)の合計一九名の出席をいただいております。小学校の恩師紹介は迫田恒夫先生、中学校の恩師紹介は高乗秀明先生に行っていました。同窓生の方々は、自分自身が直接習った先生の紹介があると、いつまでも変わらず元気な姿に、大きな拍手と歓声を上げて喜んでいました。

校と中学校が歩道橋で繋がっている様子に、皆さん大変驚かれました。

最後に出席者全員での校歌斉唱です。小学校の校歌と中学校の校歌は、卒業当時のものではなく、現在の新しいバージョンです。伴奏は、海外で活躍されています。ピアノ・中36期卒)でした。最後のフレーズの歌詞が当時と異なっているのが、みなさん戸惑っておられました。会場いっぱい校歌が響き渡り、「同窓生のつどい」も大盛況のうちにお開きとなりました。

何かと不慣れで、不手際な点多々あったかと存じますが、皆様のおかげをもちまして、何とか無事に終了することができました。実行委員一同厚くお礼申し上げます。

今回、実行委員をさせていただいたおかげで、私たちの学年も、卒業以来行っておりませんでした学年同窓会や女子会などを開催することができました。最近では、FacebookなどのSNSを活用して、連絡の取れなかった同級生と再会できたり、学年の枠を超えた同窓



生と情報交換を行ったりと、どんな同窓生の輪が広がっております。この「同窓生のつどい」を開催する効果は、とても重要なことと再認識しております。そして、その重要な「同窓生のつどい」のお世話をすることができたことを光栄に思っています。次回の「同窓生のつどい」がさらに盛大に開催されることを願い、報告とさせていただきます。

- 1 月桂冠上撰 (鏡開き用) 二樽
- 大倉治彦様 小昭46年卒・中26期卒
- 大倉 博様 小昭54年卒・中34期卒
- 2 京友禅硝子 鏡
- 玉利直子様 小昭56年卒・中36期卒
- 3 京都丹後産こしひかり 「ぐえによぼ」
- 荒木俊哉様 小昭56年卒・中36期卒
- 4 クレンジングフォームとピーリングジェル 三セット
- 金岡泰之様 小昭56年卒・中36期卒
- 5 ワイン(赤白二本セット) 小仲律子様 中36期卒
- 6 リキッドアイスコーヒーと紅茶セット 小西宣子様 小昭56年卒・中36期卒
- 7 レストランNONONOLAランチご招待券 橋本清井子様 小昭57年卒・中37期卒
- 8 幾松オリジナル冷酒セット 二セット 久保聡子様 小昭57年卒・中37期卒
- 9 ホームセンター商品券 佐々木康人様 小昭57年卒・中37期卒
- 10 薬師庵 豆乳ぜんざいセット 山下隆子様 小昭57年卒・中37期卒
- 11 明治乳業 レトルトカレーセット三〇食 一箱 稲尾 剛様 小昭57年卒・中37期卒
- 12 ワイン 海老名正裕様 小昭57年卒・中37期卒
- 13 防災非常食詰め合わせ 二セット 高橋良和様 小昭58年卒・中38期卒
- 14 京料理 下鴨 福助 鯖寿司 安念陽子様 中39期卒
- 15 京都市ホテルオークラ お食事券 京都ホテルオークラ様

小中一貫学校に伴う校舎改修について

中・高等部副校長 橋本 雅子

同窓生の皆様方には、日頃より附属京都小中学校をご支援・ご理解いただき感謝申し上げます。小中同窓会が統合され、さらに大きな力として私たちを支えて頂くことになり、心強く感じております。

さて、校舎もここ数年で大規模改修工事により大きく変化いたしました。その一端をご紹介します。二〇〇三年度に「九年制義務教育学校設立に向けた教育システムの開発」を研究課題として、文部科学省研究開発指定を受けました。小中学校設立に向けた校舎改修工事の予算がつき、東エリアすべての改修ならびに冷暖房が完備されました。二〇〇五年度には、中学校給食導入に伴いランチルームが新築されました。現在では、一年生から四年生は西エリア給食室での配膳給食、五年生から七年生は業者委託による配膳給食、八、九年生は希望給食（弁当式）を導入しています。二〇〇八年度には、校舎・体育館の改修工事において、



北棟の特別教室を普通教室に改修し、二〇〇九年度には五、六年生の教室を東エリアに移設しました。本館は、南棟のコンピュータ室に加え、二階にメディア教室を新設。新しくなったコンピュータで情報教育を推進しています。三階に音楽室を移し、階段式で冷暖房完備の教室ですばらしい歌声を響かせています。南棟には造形室・理科室・調理室・多目的融合教室

の改修工事が完成し、どの教室も内装が一新しました。講堂は、一階に六百席を設け、照明機器も本格的なものを導入し、多彩な照明が可能となりました。また、空調や椅子も新調し、五年生から九年生が集う全校集会も開催できる立派な講堂に生まれ変わりました。そして、昨年度、西エリアに多目的図書館、西エリアと東エリアをつなぐ連絡通路が完成しました。東エリア北棟にあった図書館を西エリアに多目的図書館として移設し、広々とした空間を確保。コンピュータが使用できる資料室、茶道や華道が学習できる和室など多目的に活用できる施設になりました。将来的には、保護者や同窓生の皆さんにも使用していただけるよう整備したいと思えます。

連絡通路は、小中一貫学校として、私たちが一番切望した施設です。小中をつなぐ安全で便利な通路は、施設としての役割にとどまらず、一年生から九年生をつなぐ心の架け橋になると確信していたからです。建築にあたっては、建築審査会において育友会や同窓会の方々からの応援もありました。そんな思いが各関係機関に届き完



成したものです。今では、全校生徒が集う対面式やスポーツフェスティバル紫翔祭、附属フェスティバル紫友祭などの行事はもちろんのこと、日常的に連絡通路を行き来することで心が通い合い、小中一貫が目指す豊かな人間性の育成につながっていると感じています。同窓生の皆様方も、一度附属京都小中学校に足を運んでいただき、不易の伝統を感じていただくと同時に、新しくなった校舎そして子ども達を見ていただき、今後とも最強の応援団として見守っていただけましたら幸いです。今後ともよろしくお願いいたします。

初等部(西エリア) 教育環境改善について

初等部副校長 戸田 和樹

旧同窓会が解散、新しい小中統合同窓会の立ち上げ総会が開催されました。二つの組織を一つにまとめるということは、文字で記せば簡単なことではありますが、それを担われる皆様のご尽力に、まずは敬意を表したいと思います。また、長年にわたり旧同窓会をまとめてこられた諸先輩の皆様方に御礼申し上げます。

さて、昨年度、初等部(西エリア)では、旧東櫻同窓会のお力添えを頂き、大運動場と築山の改修、芸術館の側壁塗り替えと階段ギャラリ設置(三谷十糸子氏「夏」の修復)を行いました。

大運動場は一九七〇年代以降、改修のための概算要求を繰り返し実現することがないまま今日に至り、風が吹くと土が舞い上がるという状況の中、子どもたちは利用してきました。その状況を知った先輩および関係者の皆様のご尽力で、夏休み中に深さ一五cm掘り下げ、新しい土を入れると共

に、側溝の改修も行うことができました。お陰様で、十月四日の紫翔祭では、新しい運動場で子どもたちが元気溼刺、運動に親しむことができました。

創立百周年記念に築かれた築山は、子どもたちが登って遊ぶに適した素晴らしい環境で、こうした環境が近年公立の学校からどんどん消え失せているのも現実です。この築山をどうするか相談を受けたときに、私は即座に残していただくことを要望いたしました。



ただ、現状のままでは、屋根付近から土やガラが南側運動場に常時崩れ落ち、側溝を埋めてしまうことから、南側斜面に土止め用に三段の階段状の土地を設置しました。九月二六日には、四年生とともに六百本のサツキの記念植樹を行いました。薄ピンク、白、ピンクの三色の花が美しいコントラストを見せてくれることでしょう。是非同窓生の皆様にもご覧になっていただきたいものと考えています。

芸術館は、建設以来三〇年程、側壁の塗り替えが実施されてきませんでした。そのため、コンクリートに水が回っている箇所やびび割

れなどが目立つようになりしました。そこで、夏休み期間を利用して、全面塗り替えを実施しました。また、旧同窓会よりお申し出があった三谷十糸子画伯の「夏」の修復画の展示に伴い、本校にかつて寄贈された名画のいくつかを階段ギャラリに展示することにいたしました。現在、展示されている絵画は次のようになっています。

- 一、三谷十糸子氏「夏」
- 二、水清公子氏(植物画)
- 三、柳原良平氏「船出」
- 四、中村光伸氏「湖西の雪景色」
- 五、浜田昇児氏「谷間の白い樹」
- 六、太田喜二郎氏「桜」

七、服部勲氏(学校近景)
八、森茂一氏(中庭風景)

かつて旧校舎講堂に掲げられていた三谷十糸子氏の「夏」は、傷みも激しく修復をしなければ、描かれた情景自体も失われてしまうところに至っていました。修復のため詳細を調べた結果、相当の美術的価値があることも判明し、幸いなことに、修復が可能と分かり、胸をなで下ろしました。皆様にも、ご来校の折には、是非懐かしい絵画をご鑑賞いただきたいと思っています。

◆ 恩師 点描

「附属京都小学校」



多田 光利

二〇一〇
(平成二二)年
に附属京
都小小学
校
(現附属京
都小中学

校)を退職。現在は京都教育大学
大学院連合教職実践研究科で客員
教授として、院生と授業力の高度
化に関する研究をしています。教
育心理や教育法規をはじめとする
教職教養のゼミ、教員になるため
の板書やノートの取り方、生徒指
導の在り方などの講義を通して若
い人たちと楽しい時間を過ごして
います。

卒業生の皆さんとの想い出は、
やはり宿泊学習ではないでしょう
か。臨海学舎は宿泊施設の関係で
舞鶴三浜や久美浜町など実施場所
も変わり、参加学年も最終的には
五年生だけとなりました。しかし、

磯浜での水泳、遠泳、キャンププア
イアとプログラムが進み、日が経
つにつれ、不思議なことにみんな
がどこことなくたくましく見えたも
のでした。兵庫県八千北高原のス
キー学舎は、三日間とも雨にたた
られたという学年もありました
ね。宿泊所の広間でゲーム大会を
して過ごしたというのも今から思
えばめったに経験できない宿泊学
習でした。似顔絵大会、楽しかつ
たです。

わたし自身にとって附属京都小
学校での二八年間の中で忘れられ
ないのは、校舎の改修と九年制義
務教育学校設立に向けての研究
だったと思います。本当に、いい
経験をさせていただきました。
(昭和五七年度〜平成二二年度在籍)



「附属小学校での五年間」



泉尾健太郎

私は、昭
和五四年四
月から昭和
五九年三月
まで附小に
勤務させて

いただきました。この間、附小で
「授業」の難しさと楽しさという
ことを学びました。授業研究会は
今までに経験したことがないくら
いの厳しいものですが、このお
かげで、その後、自分が思い描く
「よい授業」がしたいという目標
を持った教員生活を送ることがで
きたと感謝しています。

附小では、心に残ることがたく
さんありました。初めての卒業式
で聞いた卒業生の素晴らしい「菓
立ちの歌」の合唱には鳥肌が立つ
ほど感動しました。ピアノとエレ
クトーンの伴奏で歌う合唱は、そ
れはそれは素晴らしいものでし
た。臨海での大遠泳を最大目標に
した水泳学習は、大遠泳を目的前
で見る五年生への動機付けと、大
遠泳に参加するための厳しい泳力

のチェックと、そのための日々の
水泳学習とが一体になったもので
した。大遠泳に参加することが低
学年や中学年の子どもたちにとつ
てもあこがれとなり、まさしく学
校全体の取組となっていることは
驚きでした。

今は、児童館に関わる仕事を少
しと念願の晴耕雨読の生活を楽し
んでいます。
(昭和五四年度〜昭和五八年度在
籍)

「附属京都小学校の思い出」



山口 陽子

附属京都
小学校に
一六年間お
世話になり
ました。六
年前に退職

し、今はPTAコーラスと二つの
女声合唱団の指導、三つの老人福
祉センターでの「童謡と唱歌」の
指導、二つの小学校で学校支援ボ
ランティアとして音楽の授業、と
音楽三昧の日々です。

附小の子ども達は個性的で、自
分の考えをしっかりと持っており、

自立心に溢れているという印象です。私の研究教科が音楽でしたから、担任をすると他学級に出ることが多く、小一でも教科により担任外の先生が教えるやり方ではない事で、とても感動したことを覚えていきます。

特に強く残っているのは二年毎の研究発表会です。私は音楽の授業を公開します。教室に溢れるように参観される先生方の前で、子ども達は美しい声を響かせのびのびと歌っていました。

研究会の終了が次期研究の出發。頭の中はいつも研究のことで一杯。どうしたら楽しい授業になるか、美しい歌声になるか、色々考えることは大変でしたが、楽しいことでもありました。合唱団でのコンクールに向けての朝練や夏休みの練習も忘れられません。

附小の先生方や子ども達から多くのことを学びましたが、これが今、大きな宝物になっています。(昭和五二年度〜平成四年度在籍)

「附属京都の小中一貫教育への期待」

竹中 宏文



私は京都教育大学を卒業した年から一五年間、附属京都中学校で

お世話になりました。教員一年目の頃は、生徒達に教育実習の延長とからかわれたものですが、楽しかった日々でした。中学校では、担任やD組の指導、クラブに英語の教科指導と、二年に一度の全国発表も含めて、教員として本当に大きな財産をいただきました。

その後、高校時代の恩師が校長を務める北海道の立命館慶祥高校に勤め、二〇〇〇年には中学校を開校し、二〇〇五年秋には立命館の本部に戻り、一貫教育部長として、立命館小学校や立命館守山高校の開校に携わってきました。そして、今は出向で、初芝立命館中高などを擁する学校法人大阪初芝学園の常務理事として、毎日大阪の堺市まで通っています。

附属京都が義務教育一貫として生まれ変わること、非常に期待もしていますし、喜ばしいことだと感じています。ただ、立命館も小から高までの一二年間一貫教育に挑戦していますが、現実には困難な課題がいっぱいあります。それらの課題にひとつひとつ挑戦しながらフロンティアを走る意義を、附属は私に教えてくれたと思っております。これからも、先頭を走り、挑戦を続ける附属京都小中であっていただきたいと思えます。

た。三大行事・盾行事・文化祭の劇等々。振り返ってみれば、これらの行事や学級・部活が現在に至る教員活動の元になっていると言っても過言ではありません。生徒のみんなも懸命に頑張っており、一つひとつの行事や活動に取り組んでいたのではないのでしょうか。合唱や体育祭の取組・学級新聞、特に劇は教官劇で身をもって覚えました。実は私も懸命にならないと生徒の方が上を行くので焦っていたのです。その分、身に付くことも多く今も色々な場面で活用させてもらっています。

「教員生活のもと」

高屋 定克



附属を離れて早くも一七年が経ってしまいました。現在は京都

市立花背小中学校に勤務、一年から九年生まで居る、山の中の小さな学校です。今、頭の中で附中に勤めていた頃のこととがどんどん湧いてきまし

今は京都市で唯一スキーを体育授業で取り組める環境にあり、専門のスキーを活かしていますが、附属の時に始めたバドミントンやテニスは授業や部活で役立っています。他にもボーリング・ビリヤードも覚ええました。(これは趣味だけですね)最近ゴルフを始め、これも学校でやっています。残り数年、最後までしっかりと勤めたいと思っています。保健体育科(昭和六一年度〜平成六年度在籍)

「Ⅱ理教室より」

竹谷 孝司



私 は 一九八三年（昭和五八年）から一一年間附属京都中学

校でお世話になりました。この三月に衣笠中学校で退職をします。附属の思い出はたくさんあり、得たものも多く大変感謝をしています。

初めて赴任した頃の印象は、生意気な坊ちゃん、お譲ちゃんを相手に悪戦苦闘していたというところ。少しづつ学校にも馴染み、三年生を担当した時は、生徒も私も涙、涙の卒業式でした。それ以来三年生を担当する機会がなく、今でも年賀状をくれる人たちがいて、私にとっては思い出深い、大切な生徒たちです。また一年間でしたが、D組（育成学級）の担任をさせてもらった事が、その後の教師生活の財産になりました。Ⅱ理教室のテラスから生徒たちが帰る姿を、ビートルズの下校放

送を聴きながら見送っていたのが懐かしい場面として思い出されます。泳ぎの苦手な私に遠泳をさせたり、山好きだけども、嫌になるほど歩かせられたりと、大変な学校でしたが、楽しい思い出となっています。卒業生の皆さんが様々な場で活躍されていることを、嬉しく、誇りに思っています。

同窓会の益々のご発展を祈っています。理科（昭和五八年度〜平成五年度在籍）

今回は、小中学校同窓会が統合された事に伴い、私達幹事学年が小学校や中学校で授業はもちろんのこと、放課後のクラブ活動などでもお世話になりました六名の先生方からご寄稿いただきました。寄稿お願いのため、先生方におよそ二五年ぶりに連絡を取りましたが、すぐに当時のことなどを思い出され、快諾いただきましたことをとても嬉しく皆様にご報告したいと思います。

◆同窓生点描

◆小昭59年卒・中39期卒

細川 浩三



附属京都小学校の大運動場でサッカーを知ったその日から、私

み、異様な熱気と経験したことのないサッカーならではの空気がありました。この日、私はサッカーに世界中が熱狂する理由が初めて分かった気がしました。

私が現役生活の中で最も衝撃を受けたのは、名古屋グランパスとの対戦でした。現在名古屋で監督を務めるストイコビッチ氏が、背番号10を付けスーパースターとして大活躍していた時代のことです。それまでも、多くの素晴らしい選手と対戦させて頂きました。このストイコビッチ選手と対峙した際の衝撃は、私のサッカー観を根底から変える程のものでした。例えば、私が幼稚園児とサッカーをして遊ぶ時、二〜三人を一度に相手しても絶対にボールを奪われませんし、子どもが何を考え、どこで足を出そうとするかほぼ全て分かります。まさに、ストイコビッチ選手との対戦はその現象と同じ状況がプロのピッチで起こっているような感覚でした。もちろん

の生活は常にサッカーと共にありました。そして、その後私は多くの方々の支えを受けながらプロサッカー選手としてプレーする幸運をも与えて頂きました。そのプロ生活を通して多くの事を学ぶと同時に、「世界の広さ」、「自分自身の小ささ」を衝撃的な体験を通じて実感し、その出来事が今でも自分自身の向上意欲に大きな影響を与えてくれています。その当時、Jリーグはこのスタジアムも超満員でした。キックオフと同時に満員のスタンドからの耳をつんざかんばかりの歓声と大量の紙吹雪がピッチを包み込

ん、私が幼稚園児です。このような「レベルの差」と言うことさえおこがましい「世界が違う」という感覚は過去に経験したことのない感覚でした。ただ、その衝撃は私にとって悲観的なものではなく、サッカーの本質を垣間見たという非常にポジティブなものでした。今思えば、その瞬間こそが私にとって本当の意味でのサッカーとの「出会い」だったように思います。

現在、私は京都パープルサンガのスポーツディレクターとして、チームの強化をはかっております。附属京都小学校の大運動場での小さな一歩が今の私を形作ってくれたといっても過言ではないでしょう。小・中学校時代に夢描いていたことへ進んでいけたことに幸せを感じています。



◆小昭60年卒・中40期卒

若野 豪宏



私は、現在建築士として京都を中心に活動しています。幼少より、工作やプラモデル作り、物事を空想するのが好きだった私には天職であり、楽とは言えない不眠不休の生活ですが、充実した生活を送っております。公共民間問わず、医療福祉や学校建築からマンション、住宅まで多用途の建物に携わり、多くの人々との出会いに喜びを感じます。附属の卒業生にお会いすることも多く、先輩諸兄はじめ皆様方のご活躍に感心します。

最近、十年近くかけて改修を進めている岡崎の京都市動物園の設計に携わっています。明治三六年の開園から百年たった二〇〇三年にも百周年記念事業としてサル舎を設計しましたが、今回は爬虫類を展示する施設や南禅寺通りに面した新しいエントランスを設計

しました。小学校に通っていた頃、松ヶ崎の田んぼや川に入って魚を捕ったり、山で虫取りをするなど動物が好きだったこともあり、動物に関わる楽しい仕事についてい熱が入りました。

また、一昨年より「明るい豊かな社会の実現」を標榜する社団法人京都青年会議所（京都J.C）に入会し、社会貢献活動の一端を担っています。昨年の東日本大震災においては、直後の迅速な対応で京都市の信頼を得て、現在も行政のバックアップをいただきながら継続的に支援活動を行っています。街頭での募金活動も行い、今年に入っては、宮城県石巻市の小学校を訪れました。被災地の風景は、今なお復興とはほど遠く、阪神淡路とは違う深刻さを感じました。このように様々な社会問題に対して真摯に取り組む数少ない団体の一員として四〇歳の卒業まで頑張っていこうと思います。

最近、仕事や社会活動を通じて得られる人の喜びや幸福を我が喜びとして感じるがあります。ある心理学者が提唱した「自己実現理論」の中では、人の欲求には

段階があり、欲求を段階的に満たした人間は、他人や社会の為に、そして人の幸せに貢献することで、自己超越の欲求を満足し得るといいます。

四〇歳を前に、こうした事を考え、感じられるようになった全ての原点は、小学校四年生で始めた紫サッカー少年団での経験を含めて、附属小・中学校時代にあると思っております。

◆小昭61年卒・中41期卒

小谷 賢



この度、小中学校で統一された「同窓会だより（仮称）」に寄

稿できることを嬉しく思います。小学校では黄色のランリユックを背負って毎日バス通学したこと、中学校では閉校の際に流れるピートルズの『Hey Jude』に追われるように帰宅していたことなどが昨日の事のように思い出されます。私は今、防衛省防衛研究所というところでインテリジェンスの研

究を行っています。インテリジェンスとは国家の情報活動に関することで、例えば『007』のようなスパイをイメージしてもらえればわかり易いかも知れません。スパイは情報収集では欠かせない手段ですが、その他にも日々の新聞記事から情報収集衛星まであらゆる手段で世の中の情報が集められています。

学術的に言えば、国の情報機関がどのように情報を集め、分析し、それを外交や安全保障政策に利用するか、というような話になります。日本の組織の場合、官民間わず情報によって合理的に決定するのは苦手で、その場の空気や目的を優先して決定してしまいがちですが、どうすれば組織が情報を使いこなせるようになるのか、というのがテーマの一つです。

さらに情報はただ漫然と集めているだけではほとんど役に立ちませんので、集めた情報を丹念に分析し、価値のある「使える情報」を生み出すことが必要になってきます。私がよくたとえに挙げるのは、天気予報を見る我々にとって重要なのは、湿度や気圧配置など

のデータの類ではなく、それらデータから導き出される「明日の天気」という情報だということだと思います。基本的な研究調査は文献や資料を読むことが主ですが、その他にも霞が関の省庁や、欧米各国の専門家と意見交換を行うこともあります。過去には調査のためにイスラエルや南アフリカなども訪れました。

今から振り返れば、小中学校は自由闊達な校風でしたので、色々なものに関心を向けることができていると思います。個人的には小学校五年生の時、国際子どもキャンプ(CISV)への参加のためイタリアに一か月ほど滞在したことで、国際社会への関心が芽生えました。この活動のため小学校を一週間以上休むことになってしまいました。当時の小学校の対応は大変寛容であり、得難い体験をさせてもらったと感謝しています。



◆ 年次だより

■ 小昭8年卒

八桜会

久し振りに昭和八年小学校卒(八桜会)のクラス会を、昨年四月二八日、京新山で開きました。九一歳もすぎ、全員杖が必要になりましたが、昔の木造建ての校舎での六年間の生活をなつかしく語り合いましたので、ご報告致します。出席者 竹沢徳祐・秋山邦一 北原道彦・前窪敏・中村千鳥

(中村千鳥)

■ 小昭12年卒

しばらくの間に友人は亡くなっていた。友人ばかりでなく御縁のある方々も鬼籍に入っておられた。そんな年齢になってしまった。大正生まれは、いつの間にか高い木の天辺にいる鴉のようだと青空を眺めてふと思う。そしてやたらに過去が恋しくなる。小学生のはじめ、紫野へ通っている途中に疎水があり、小さな橋が架かっていた。川を流れる小魚を眺めながら

登校した。数々の思い出は後ろへ後ろへと飛んでしまった。

いつしか戦争の真つ只中に。この世は非常時と呼ばれていた。

当時は南北二分して、北部に運動場があった。運動会はここで行われた。低鉄棒での逆上がりはむずかしくて、放課後練習したものだ。その後何年かして、男子生徒は兵隊となって出征して行った。



大東亜戦争のあと随分歳月が流れた。皆の消息はわかりにくい。想い出だけは心に残っている。

(梶山千鶴子)

■小昭14年卒

新桜会

旧校舎に五年、現校舎に一年学んだクラスです。私共の会は何時にも福井さんのお世話になっています。昨年五月に開催し、関東から二名関西から九名出席、昔話や現況報告などに興じました。地域ごとの会もあります。それぞれは歩んで来た道は異なり、年寄りの程度もまちまちです。が、古き男女の友が、こうして交流することは、穏やかな充実した気持ちになつてきます。

(坂本誠之)

■小昭18年卒

紫桜会

私ども昭和一八年卒の同窓生は卒業したときは男女別々のクラスでしたが、昭和五三年以来毎年恩師をお迎えして同窓会(紫桜会)をやっています。

昨年も去る一〇月一日(土)に



烏丸京都ホテルで、二五回目の「紫桜会」を持ちました。九三才になれる泉先生(旧姓大釜美穂子先生)を囲んで、男五名女一一名計一七名が集まり、近況や小学校時代の思い出を語り合う楽しい同窓会となりました。

寄る年波に勝てず、男性の出席者が年々減っていくのが淋しいかぎりですが、女性軍のパワーと声楽家(?)中川君の音頭とマンドリン伴奏の元「びわ湖周航の歌」や「ふるさと」など懐かしい歌声とともに賑やかな同窓会でした。

今年は卒業七〇周年(第二五回)

でもありますので、記念の会にしようとのみんなの声で、来年の再会を約して次期幹事や日程を決めて散会した次第です。

(武石)

■小昭19年卒

我々の入学時には、まだ古い木造の校舎でしたが、一年の時に現在の小学校の校舎が建設され、二年生から新校舎に移りました。卒業は、京都師範学校附属国民学校でした。その中に、第一教室と第二教室があり、六年生の時に合併して一つになり、イ・ロ・ハ(男・男・女)の三組になりました。

我々は、今年八〇歳になりました。毎年十一月一日に同期会を京都タワーホテルで開催しています。昨年の参加は三五名で、一年より多くなりました。

毎年、今年で最後の会かなとは思いますが、元気な同期生の顔を見れば、また来年もということになり、平成二四年も、十一月一日(日曜日)を予約してしまいました。幹事が元気な限りは続けることになりそうです。

(武居)



■小昭22年卒・中2期卒

いぬい会

昭和二二年小学校卒業の我々は、干支が戌と亥に当たる為、同窓会名を「いぬい会」と命名。前回は、昨年五月に附属京都中学校の皆さんの楽器演奏を聞き、校舎を見学、西陣の「魚新」で懇親会をもった。一八回目の今回は十一月一八日下京の「木乃婦」で開催。正午より始まった会は、末川千穂子さんの冥福を祈り黙祷を捧げた後、絹川君より東櫻同窓会小中統

一の運びと同期の委員三名の提案があり、参加者全員の賛同を得た。引き続き「木乃婦」の高橋シェフより、提供された料理の説明と京都シェフグループの活動について説明あり。一つは京都と欧米のシェフグループの交流実施、二つ目は東京と京都のシェフが二台のクッキングカーを調達し、東日本大震災の被災地を訪れ、現地食材を使って料理を提供し、被災者の好評を得たこと。続いて、遠方より参加の岡部君と池田さんの近況報告あり。各テーブルの皆さんの会話も盛り上がり、次回多数出席を約束し散会した次第。

(徳廣桂三)

■小昭24年卒・中4期卒

昨夏、三回目の学年旅行を初めてのクルージング(神戸〜横浜)で楽しみました。婦人連れも含めて三七人の参加がありました。船酔いする人もなく、至って快適でした。

にっぽん丸元船長の澤山恵一氏のご配慮で、乗船代も割安に、夕食・二次会も別室で、操舵室にも

入れていただくなど、特上のクルージングとなりました。

「時間を気にせず、ゆったりできてよかった」、「船旅をしたかったという夢がかなった」、「海の広さ、黒潮の流れを実感した」等々、好意的な感想を多くいただきました。

経費は船会社へ直接振り込むので、今回の世話役は会費を集めることもなく、諸日程も概ね船側のスケジュールに則っており、大変楽をさせていただきました。

(迫田恒夫)

■小昭25年卒・中5期卒

五期会

C組幹事で、二〇一〇年九月に京都ホテルオークラで五期会を開きました。先生方は、岩切先生と熊谷先生に出席していただきました。男性二九名女性一五名の出席で、祇園の芸者さんの舞も観賞しました。また、これとは別に、東京在住の五期会の方は毎月一回昼食会を開いてるとの事です。

(有原 眞)



■小昭33年卒・中13期卒

今年四月六日に、同期会が京都、二条城前のホテルで開催された。

同期約一五〇名の三分の一、約五〇名が集まり、弾けるような笑顔一杯、四名の恩師を囲みながら近況報告、附属の思い出話などで

あつという間の四時間余りだった。同期の約三分の一、私も含め四八名が住む関東でも、関東同期会が開催されている。前回の関東同期会(二〇一〇年二月)は、有楽町の外国人記者クラブで開催。二一名の同期が集まり昔に戻り、賑やかに和気藹々と楽しい時間を過ごした。

同期と会うと近況報告のみならず、紫野の校舎、体育会、大徳寺境内での写生大会、寒中の京都を



走った能力遠足、若狭高浜での臨海学校・遠泳、瀬戸内海・東京への修学旅行など附属時代の思い出話しなど話しは尽きない。

(長谷川博一)

■小昭49年卒・中29期卒

みなさんお元気ですか？だんだんと細かい字が読みづらくなってきたのではないのでしょうか。(笑)

さて、前回の同窓会でお約束しました「京都・桃山合同同窓会」を開催します。全員が五〇歳になった記念同窓会です。日時と場所は次の通りです。

日時 二〇一二年(平成二四年) 九月一六日(日) 一八時 三〇分より

場所 ホテルグランヴィア京都

古今の間(予定)

当日はイベントも計画していません。連休で翌日も休みですので、久しぶりに出会う同級生や恩師の先生と楽しく過ごしましょう。是非多くの方にお集まりいただきたく、同級生全員に案内が届くようにしたいと考えています。住所・連絡先の変わっている方も大勢いらっしやいます。今も年賀状など

やり取りのある方に声をかけて頂き、名簿整理のお手伝いをお願いします。皆様のご協力で一人でも多くの方にご参加頂きたいと思えます。

なお、「京都・桃山合同同窓会」は今後もオリンピック開催年には継続して開催予定です。よろしくお願いたします。

(雑賀和彦)

■小昭59年卒・中39期卒

年末押し

迫る平成二三年二月二九日、小中学同級生の宮川佳三君が専務取締役として勤める京都ガーデンホテル(御池室町下ル)にて、同窓会を開催



男女合わせて六一名が、北は北海道、南は博多から大集合。一次

会だけでは話が尽きず、二次会も四〇名余りが参加。

昭和四六年度生同窓会ブログも開設し、次回は今夏に会えたらいいなとますます盛り上がっています。

ブログ URL

<http://showa46.blog.fc2.com/>

(川久保明日香)

■小昭60年卒・中40期卒

昨夏八月の暑い最中、一人の同窓生の結婚式を機に小中学校の同窓会を京都市内で開催。参加者は約三〇名でした。最初は、名前と顔が一致せず戸惑う場面もありましたが、自己紹介をしてからは終始笑顔が絶えない、たのしい同窓会となりました。

場を盛り上げる仲間、会を仕切る仲間、ずっと人の話を聞き入る仲間など、みんなの小さい頃と変わらない表情や振る舞いを見ていると安心感を覚え、ほっとしました。

久々の同窓会で、昔話が盛り上がり、時間が無くなりましたが、これからの人生で再び新たな友情を育む為にも、今後は継続的に開

催したいと思えます。

(若野豪宏)

■小昭61年卒・中41期卒

昨春秋頃から、にわか(?)に活動を開始した我が学年の同窓会実行委員会。来るべきつどいに向けて、徐々に規模を拡大していく魂胆です。



第一回の記念すべき集まりは、同窓生五名に家族六名と言う何ともこぢんまりとした感じ。知る限りの同窓生情報を交換し、次回の参加人数倍増を誓ってお開きとなりました。

(林 一樹)

次回の参加者大募集中です!

行事委員会の活動について

行事委員長 荻野 晋也

行事委員会の活動は、三年に一度開かれる総会のお手伝いとその主な活動内容です。

以前は、総会の企画、運営にも主として関わり、総会を開催して来ましたが、卒業生三学年による実行委員会が結成され、その実行委員会によって総会の主な企画運営がなされるようになってからは、あくまで補助的に実行委員会のお手伝いをするような形になってきています。

今後の行事委員会のあり方として、過去の総会の企画、運営に携わった経験に基づく助言やお手伝いを通じて実行委員会の方々と連携しながら、総会の成功を導くこと。又、各学年の役員の方々に総会の出席を一人でも多くお願いしていくこと。そして、総会当日に実行委員会と協力しながら受付等のお手伝いをさせて頂くこと。この三つを主な柱として、活動していきたいと考えています。今後とも皆様方のご協力をお願い致します。

名簿委員会の活動について

名簿委員 梅垣、筑摩

統合前は諸先輩の方々がいて下さった名簿委員ですが、小中統合を期に若輩者が引き継いでさせて頂いておられます。「小学校と中学校の名簿を一緒にする」と一口に行っても大変な作業です。名簿点検や同窓会誌発送の仕事は、すべて、名簿委員はじめ他の同窓会委員やお手伝いに駆けて頂いた有志の皆様にお世話になっていきます。

ちなみに私の学年は、高校の同窓会を四年ごとに行っていて、先日同窓会がありました。最近は、案内も出欠の返信もメールで行うので、住所確認できません。同窓会や、同窓生に会う機会には、鞆に学年の名簿を入れていき、友達に見せて確認しました。「○○さんは、今どないしてはる?」、「転勤して、△△にいはいはるらしいけど。メール分かっているんなら、メールして住所聞いてみたら?」という具合に、同窓生みんなから近況や住所や連絡先を聞いて直してい

きました。人と人との温かいつながりの中、名簿委員をさせて頂いておられます。今後ともよろしくお願いいたします。

広報委員会の活動について

広報委員 大塚

広報委員会は、総会のお知らせ、会員の皆さんの近況、並びに、現在の母校の様子を伝える同窓会会報誌の発行のお手伝いを行っています。実行委員会を中心にたよりの編集がおこなわれるようになってからは、実行委員会のサポートという形で活動しています。三年ごとにメンバーが変わる実行委員会。編集作業の経験者がいないこともあり、過去の編集作業の様子や経験から得た助言を伝えることで、少しでも実行委員会のみなさんを助けられたらと考えています。

今回は、小中同窓会が統合して初めての発行、同窓会名もまだ仮称ということで、『同窓会だより(仮称)』という形で発行しました。これを期に、会報誌の名称を新しいものに変更します。以下の要領

で皆様から新名称を公募致しますので、ふるってご応募ください。

① 申込方法

郵便にてのみ受け付けます。お一人様何点でも応募できますが、ご応募一通につき名称は一点とします。新名称(名称が良いと思う理由があれば理由も)、郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、小学校卒業年あるいは中学校卒業期、電話番号をご明記下さい。

② 申込先

六〇三―八一六三
京都市北区小山西大野町一
東櫻同窓会(仮称)
会報誌新名称公募係

③ 応募締切日

平成二四年一二月二五日必着

④ 応募資格

附属京都小学校および中学校に在籍していた方

⑤ 選考・発表

理事會にて選考後、ホームページ上にて発表致します。

会員の皆さんの会報誌への寄稿も大歓迎です。寄稿方法は、同窓会ホームページからお問い合わせください。

二重発送が起こった場合には

先のごあいさつにも書きました
が、統合名簿はコンピュータによる
機械的作業でございました。
各学年名簿担当理事さんの確認も
いただきましたが、学年によって
はまだ返事をいただいていない学
年もありますし、不明という返事
も多くいただいております、まだ多く
の不備を抱えていると思われま
す。特に、ご結婚などで改姓され
た方は名簿に二重に掲載されてし
まっているケースが多々あると思
われます。そこで今回の「たより」
が別名で二通来た、たとえば、現
住所と実家の両方に別名で来たよ
うな場合は同窓会までお知らせ下
さい。できましたら、FAXか同
窓会ホームページからのインター
ネット連絡のような文書のかたち
でいただければ幸いです。

各学年への名簿データ提供

今後、同窓会では紙版での名簿
は発行せず、コンピュータのデー
タベースのかたちで名簿を維持管
理していくことにしています。各

学年でコンピュータデータベース
のかたちで名簿が欲しいというご
要望がございましたら、同窓会ま
でご連絡ください。当該学年分
に限って、EXCELファイルのか
ちでデータベースを提供します。
ただし提供請求は各学年の代表理
事を通じておこなってください。
代表理事以外からの請求があつた
場合は代表理事に確認させていた
だきます。

提供に当たっては左記の条件に
したがっていただくことになりま
す。詳しくは同窓会までお問い合
わせ下さい。

・データベースの個人情報は同窓
生の親睦にのみ使用し、物品販
売等、商業目的に利用すること
はできません。

・データベースの個人情報に漏洩
させることのないよう、その取
り扱いには十分注意してくださ
い。

・データベースを同窓会会員以外
の第三者に開示・譲渡すること
はできません。また同窓会会員
であっても使用目的に適合しな
い場合は開示・譲渡できません。

東部東櫻同窓会の解散と東京支部創設について

東部東櫻同窓会長 岡部 陽二

この度、「東櫻同窓会」と京都
附属中学校同窓会の統合を受けま
して、「東部東櫻同窓会」も解散
して、同窓会本部の東京支部に衣
替えることとなりました。私ど
もの一体化要望を、本年四月八日

(日)に母校で開催されました新
しい同窓会の本部理事会に諮りま
したところ、温かくご了承いただ
きました。本年九月八日に日本工
業倶楽部にて開催予定の東部東櫻
同窓会で、決議のち解散・統合の
運びとなります。

東部東櫻同窓会は、一九七〇年
に故赤尾庸吉氏、故西堀清美氏ら
先輩のご努力で設立され、この会
の会員は、当初から小中両校の同
窓生で構成、今回統合の新しい同
窓会に先駆けて小中一体運営をし
て参りました。

この会の会長職は、故大塚久雄
氏、吉田太郎一氏に続いて、上田
章氏が十数年にわたって勤めら
れ、会員総数約千名の組織に発展
しました。その間に、学年幹事の

方々のご努力により、三年に二回
の総会を開催し、三年に一回の会
員名簿(会誌)の発行を定例化し、
二〇〇四年には「東部東櫻だより」
を発刊してきました。

しかしながら、一方では近年卒
業生の東部地区在住者数が激減
し、会員の高齢化に伴って、総会
への参加者も減少傾向にあるな
ど、会自体が存立の危機に直面し
ているのも事実です。東京支部へ
の移行を機に、本部のご支援を得
て、東京での活動の活性化を
図ってまいりますので、各位のご
協力をよろしく願います。

東京支部に移行後も、東京での
例会を三年に一回程度は開催して
頂きたいと考えておりますが、名
簿の発行、「東部東櫻だより」の
発行、年会費の徴収は取止め、本
部と一体化する方針です。また、
当会の理事・監事方には、新しい
同窓会の学年幹事を引続きお願い
する予定です。

同窓会への寄付のお願い

同窓会会長 堀場 厚

京都教育大学附属小中学校同窓会会員の皆様には日頃から温かいご支援を賜りまして厚くお礼申し上げます。

当同窓会は小・中学校同窓会を統合し、今年新たにスタートいたしました。この統合に伴い、会員の皆様に毎年納入依頼させていただいていた同窓会費納入制度を入学時の終身会費納入へと変更いたしましたため、卒業生の皆様については会費納入不要となります。

しかしながら、同窓会業務の大きな事業目的の一つ、後輩達の教育環境の整備については引き続き力を入れていきたいと考えておりますし、小中学校の統合にあたり、校舎や教室の多くが改築された中で、公費や在校生の終身会費だけでは理想の教育環境を隅々まで整えることが難しい状態です。

そこで、同窓会の皆様には一口三〇〇〇円にてご寄附をお願いいたしました。ご依頼申し上げます。一口以上何口でも結構ですので、ぜひ京都教育大学附属京都小中学校の後輩達のためにご寄付をお願いいたします。

なお、郵便振替の宛先が旧同窓会名称である「京都教育大学附属京都小学校東櫻同窓会」となっておりますが、これは現在の(仮称)のついた同窓会名では口座が開設できないことによる臨時の措置でございます。

みなさまの多大なご理解とご協力をこの場をお借りして、心よりお願い申し上げます。

恩師の(ご)消息

藤井 政夫先生

平成二二年三月ご逝去

お一人の恩師がご逝去になりました。昭和四二年度から昭和五八年度まで附属京都中学校にご勤務した。心から哀悼の意を表します。

社会科を担当されていて、昭和五五年度から昭和五八年度の四年間は、副校長を務められていました。

実行委員会から

私達、実行委員は小学校昭和五九年から六一年卒、及び中学校三九期から四一期まで(昭和四六年度生まれから四八年度生まれ)のごく少数のメンバーで運営しています。

先生や先輩から、「幹事学年が回ってくるぞ」と言われ、前回の同窓生のつどいへ同級生三名で出席し、これは大役が回ってきたと驚いている間もなく、引き継ぎが行われ、あつという間に初めての仕事である

「同窓会だより(仮称)」の編集作業となりました。理事会より多大なるご協力を得て無事発刊に至りましたが、まだまだ多くの仕事があります。今後は、同窓会だより(仮称)次号の準備作業と、一番大きな仕事であるろう二年後の「同窓生のつどい」の準備があります。

伝統ある、「同窓会だより(仮称)」の発刊と、「同窓生のつどい」を成功させるべく、今後も幹事三学年の皆様にはより一層実行委員へお力添え頂きたく宜しくお願い致します。(木村雅成)

編集後記

この度、小中同窓会統合後初の『同窓会だより(仮称)』を発行する運びとなりました。今号より実行委員も一新されたため、手探りに次ぐ手探りによる作業で、ご協力頂きました方々にはご迷惑をおかけする事も多々あったと思います。この場をお借りしてお詫び申し上げます。

また、寄付や名簿統合に伴う御願い、会報誌の名称募集など会員の皆様には色々ご協力をお願いすることとなりますが、宜しく御願いたします。

記念すべき今号は、小中一貫学校に伴って行われた改修と、昨年六月の「同窓生のつどい」の報告が中心となっております。近年、SNSなどの普及により同窓生の横のつながりは多くあるようですが、同窓会も統合されたこの機会に縦の結びつきがより一層強くなることを願っています。

最後に、ご寄稿頂きました方々や、編集にご協力戴いた皆様、ならびに中西印刷様には改めて御礼申し上げます。(川久保明日香)

同窓生のつどい



鏡開きの後の乾杯



受付の様子



柱本めぐみさんの
トワイライトコンサート



アンサンブル東櫻のコーラス



学舎紹介



福引き